



アルコール依存症と 家族

5

アルコール依存症の子どもへの支援

Support for children of Alcoholics

訪問看護ステーションふろーる
所長

辻本 直子
Naoko Tsujimoto

Summary

アルコール依存症の子どもへの支援に関する文献研究を行った。アルコール依存症の子どもへの支援の必要性は1980年代頃から報告されている。青少年の非行問題について親のアルコール問題など家族システムに着目した支援の必要性が指摘されて以降、親のアルコール依存症が子どもに与える影響（生活問題、情緒障害など）や世代間伝播の問題が明らかとなり、子どもの声を聞く機会の創出が起こった。その後、アダルトチャイルド概念が日本に導入され、育ちによる生きづらさの理解と支援が主に民間機関を中心に始まった。アダルトチャイルドや未成年の子どもを対象とした自助グループ活動やグループワークによる支援も行われた。2000年頃からは、子ども虐待防止の観点から親と子の暮らしを支援する方法についての取り組みが報告されている。さらに世帯構成数の減少や超高齢社会を背景に、アルコール依存症者を支える子（介護者としての子ども、ヤングケアラー）の支援の必要性が提起されている。書籍やWebコンテンツによる情報や啓発は活発に行われてきた。



Key Words

アルコール依存症, 子ども, 支援, 文献研究

はじめに

2016年に策定されたアルコール健康障害対策基本計画¹⁾によれば、患者調査における総患者数は、約4万人前後で推移しており、2014年は4.9万人と推計されているが、成人の飲酒行動に関する調査²⁾では、アルコール依存症の生涯経験者は100万人を超えるとの報告がある。また患者の年齢層は男性で40代後半から50代前半、女性では20代後半から30代にピークがみられ、多くが就労・子育て世代に属する。

アルコール依存症の子どもへの影響については過

去に多数報告されているが、本稿ではこれまでに国内で発表された論文・書籍などから、アルコール依存症の子どもへの支援について報告した文献を年代ごとに追った。

文献などの検索の方法は、CiNii、国会図書館、医中誌を中心とし、他に日本アルコール関連問題雑誌などから関連する文献を探索した。